

様式第3号(第12条関係)

会 議 録

会 議 の 名 称	平成26年度 第3回吉川市児童福祉審議会
開 催 日 時	平成26年9月18日(木) 午後6時00分から 午後8時25分まで
開 催 場 所	吉川市役所第2庁舎204会議室
出席委員(者)氏名	和泉広恵会長、田中公明委員、戸張精一委員、林美希委員、 小助川美穂委員、林桂委員、五十嵐修委員、長井圭子委員
欠席委員(者)氏名	なし
担当課職員職氏名	健康福祉部 副部長兼保育幼稚園課長 戸張悦男 子育て支援課 課長 岡田なるみ 子育て支援課子育て支援係 係長 木村みのり 子育て支援課子育て支援係 主任 城取直樹 保育幼稚園課課長補佐兼子ども・子育て支援新制度係 係長 岡崎久詩 保育幼稚園課保育係 係長 渡辺剛 保育幼稚園課子ども・子育て支援新制度係 主事 小川麻衣子
会議次第と会議の公開又は非公開の別	1 開 会 2 あいさつ 3 議事 (1) 保育及び学童の「量の見込み・確保方策」最終案について (2) 計画素案及びパブリック・コメントについて 4 その他 5 閉 会 ※ すべて公開
非公開の理由 (会議を非公開にした場合)	なし
傍聴者の数	なし
会議資料の名称	次第、配付資料一覧表、資料1、資料2-1、資料2-2、 資料3-1、資料3-2、追加資料(2種類)
会議録の作成方法	<input type="checkbox"/> 録音機器を使用した全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 録音機器を使用した要点記録 <input type="checkbox"/> 要点記録
会議録確認指定者	五十嵐修委員、戸張精一委員
その他の必要事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、決定事項等)

事務局	<p><b>1. 開会</b></p> <p>開会の宣言</p>
和泉会長	<p><b>2. あいさつ</b></p> <p>和泉会長挨拶</p>
事務局	<p>配付資料の確認</p>
和泉会長	<p>会議録署名人の指名</p> <p>五十嵐委員と戸張委員を指名。委員了承。</p>
	<p><b>3. 議事</b></p> <p>(1) 保育及び学童の「量の見込み・確保方策」最終案について</p> <p>て</p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p>資料1 保育の「量の見込み・確保方策」について(最終案)</p> <p>資料2-1 学童の「量の見込み・確保方策」について</p> <p>資料2-2 学童保育室利用に関する調査票</p> <p>(主な説明概要)</p> <p><b>【保育の「量の見込み・確保方策」の説明】</b></p>
事務局	<p>・前回の審議会で出された意見は次のとおり。</p> <p>① 保育の「量の見込み」については、全年齢において、前回の審議会資料1「国手引き補正案③」を中心に考える。</p> <p>② 平成27年度新設予定の2か所の保育所の定員数について、年齢別の数値を次回の審議会で提示する。</p> <p>・保育の「量の見込み」を算出するにあたり、次の点に留意する。</p> <p>① 年齢別の傾向を分析する。</p> <p>② 最新の実績値と今後の人口推計値を見て、傾向等を想定する。</p>

	<p>③ 前回の審議会資料1「国手引き補正案③」を基準に考える (ただし、国手引き補正案④を下回らないこと)。</p> <p>・以上の3点を留意して分析した結果は次のとおり。</p> <p>① 0歳は、概ね横ばい傾向であることが想定される。これまでの実績値と今後の見込みを踏まえ、平成27年度以降も維持されていくと想定する。</p> <p>② 1・2歳は、増加傾向であることを考慮しつつ、人口推計の推移も踏まえながら分析。平成29年度がピークであると想定したうえで補正を掛ける。</p> <p>③ 3～5歳は、増加傾向であることを考慮しつつ、人口推計の推移も踏まえながら分析。今後も増加傾向が続くと想定したうえで補正を掛ける。</p> <p>・確保方策については、次の点に留意する。</p> <p>① 南中学校区域に新設される保育所等を想定して数値に反映させる。</p> <p>② 国の方針にある「平成29年度までに待機児童ゼロ」を実現させる計画にする。</p> <p>(質疑応答)</p>
林美希委員	<p>平成29年度に0～2歳は109人、3～5歳は45人の不足が生じることになるが、どのような形の保育所を整備していくのか。</p>
事務局	<p>0～2歳に特化した地域型保育事業を整備することで、差を埋めていきたい。</p>
和泉会長	<p>0歳、1・2歳、3～5歳と年齢別に今後の増加傾向などが説明されたところだが、その根拠についてもう一度説明してもらいたい。</p>

事務局	<p>前回の審議会でお示しした実績の数値などを参考に傾向を分析している。過去5年間の実績を見ると、0歳は数値の推移がほとんど変わっていないことが判った。また、1・2歳は増加しているものの、その幅が少ないことや、今後の人口増加も考えにくいことから、平成29年度辺りでピークを迎えるという想定をしている。3～5歳は近年著しい増加傾向にあるため、今後も増加していく可能性が高いと想定した。</p>
和泉会長	<p>平成27年度及び平成28年度は待機児童が発生している状況となっているが、平成29年度に向けて待機児童を解消していく計画という考え方でよいか。</p>
事務局	<p>その通りである。国の方針に従い、市の姿勢として平成29年度までに待機児童ゼロを達成する計画として位置付け、整備を進めていきたい。</p>
小助川委員	<p>平成29年度に0～2歳の109人をカバーしていくというのは、非現実的に見えてしまう。</p>
事務局	<p>市としても今回の数値は非常に厳しいものが出たと考えている。この数値をクリアするためには、最低でも協議中の保育所1園と定員19人の地域型保育事業が4つ必要となるが、年齢の偏りも考えられるため、それだけでは足りない可能性もある。</p>
和泉会長	<p>実際に保育所が整備されることが決まるのはいつ頃の予定になるのか。</p>
事務局	<p>保育所の整備に当たっては、国の補助金を活用していくため、実質的には2年ほどかかり、現在協議中の保育所が開所となる</p>

	<p>のが平成28年度である。平成29年度に開設となる保育所については、来年度から協議を開始することになる。</p> <p>市としては、様々な事業体にアプローチをかけ、方策を考えていきたい。</p>
五十嵐委員	<p>地域型保育事業を整備するに当たり、国や県などの補助はどのようなものがあるのか。</p>
事務局	<p>整備に関しては、国が1/2、県が1/4の補助となる。</p>
戸張委員	<p>坪単価などによって条件が異なるため、金額としては半分の補助を見込んでいる。</p>
五十嵐委員	<p>平成29年度に整備していく保育所について、何か青写真のようなものはあるのか。</p>
事務局	<p>具体的に事業として実施できるかどうかははっきりしている段階ではないが、数件、相談等がある。</p>
和泉会長	<p>全国的に見ても、待機児童の現状は同じだと思われる。今後は、事業者の奪い合い等も予想されるため、どこまで待機児童の数値をゼロに近づけていけるかが今後の課題となる。</p>
事務局	<p>一番大きな課題は、建設費用の負担である。市としては、事業者に対して手厚い助成が出来るよう、検討していきたい。また、事業者に対して積極的にアプローチしていきたい。</p>
林美希委員	<p>数値については、前回の審議会から議論をした結果であるため異論はないが、新制度の焦点が待機児童ゼロだけになってし</p>

五十嵐委員	<p>まうのは偏りがあると思うので、地域の中で子どもが成長しやすい環境となるような計画づくりを進め、待機児童以外の話も審議会ですていただきたい。</p> <p>中学校区域の増加傾向として、南中学校区域が増加するのは、美南駅周辺の整備が関係しているということによろしいか。</p>
事務局	その通りである。
和泉会長	<p>今回の数値が最終案となるがよろしいか。</p> <p>(委員了承)</p>
事務局	<p><b>【学童の「量の見込み・確保方策」の説明】</b></p> <p><b>(主な説明概要)</b></p> <p>・学童については、第1回審議会ですて計算した方法や国手引きによるニーズ調査分析などを検討したが、いずれも計画掲載は難しいと判断したところ。このため、今年7月に新たに実施した「学童保育室利用に関する調査」結果に基づき、量の見込み及び確保方策を分析した。</p> <p>(質疑応答)</p>
林桂委員	結果を見ると、各小学校は今の教室で足りているという見方によろしいか。
事務局	増やさなければいけない学校としては、平成27年度に栄小学校、関小学校、吉川小学校、中曾根小学校、美南小学校の5校である。美南小学校については、平成28年度と平成30年度も増やす想定をしている。

林桂委員	平成27年4月から高学年の受け入れをすると思うが、対策や指導員の確保などはどこまで進んでいるのか。
事務局	<p>平成27年度について、栄小学校と美南小学校は現行で部屋が確保されているため、対応済みである。吉川小学校はクラスを2つに分けて対応する。関小学校と中曽根小学校は空き教室を活用する方向で、話を進めていきたいと考えている。</p> <p>指導員については、今後募集して集めていきたい。</p>
林桂委員	毎年、指導員の入れ替わりが激しい状況なので早く募集しないと間に合わないのではないのか。
和泉会長	今後のスケジュールなどはどのようになっているのか。
事務局	<p>例年、学童指導員の募集は2月頃に行っているが、今年度については退職者が多かったことから、前年12月から募集を開始し、必要な数を確保した経緯がある。</p> <p>今回についても年末頃から募集を開始し、必要な数を確保していきたい。これまでは、常に必要な数が確保できている状況である。</p>
林美希委員	土曜日の集合保育については、今後も栄学童と関学童のみになるのか。
事務局	現行のとおり、2学童での集合保育を考えている。入所申込時に希望を確認し、指導員の配置などを考えていく。
林桂委員	時間はこれまでどおり、17時まででよろしいか。

事務局	時間については、19時に延長となる。
長井委員	<p>利用可能な教室の提供は、学校として当然のことになると思うが、児童数が増えるということは、学級も増えることになるため、その分教室も増えることになる。実際に空き教室をいつまで利用するかや学童教室建設などのスケジュール等は決まっているのか。</p>
事務局	<p>転用できる教室については、現在、教育委員会と協議中である。平成27年度については、教室の転用で対応させていただきたいと考えている。実際に学童保育を希望する児童がどれぐらいになるのか分からない部分もあり、平成27年度の様子を見て平成28年度以降の対応を検討し、教育委員会を通じて協議していきたい。</p>
長井委員	<p>学童として利用することになる場合は、畳部屋に改修したり、水道などを設置する工事等が必要となる。また、現状復帰する教室も今後出てくるため、工期を知りたい。</p>
事務局	<p>春休みを利用するのが現実的なのところになると思う。4月1日には子どもを保育できる環境にしたい。今後、2～3年は教室の転用で対応していきたいと考えているが、それ以降は教室を増やす必要がありそうなので、教室への現状復帰も視野に入れなくてはいけない。</p>
和泉会長	<p>美南学童については、整備が今後も複数回必要な計画となっているが、大丈夫か。</p>



事務局	<p>美南学童については、現在の利用率を基準にして算出しているが、今後もこの利用率のまま推移していくかどうかは判断が難しい。しかし、利用率が変化するとしても不足が出るのが想定されるため、新たに施設を設ける必要があると考えている。</p>
五十嵐委員	<p>学童の指導員は資格などが必要となるのか。また、現在、民間に委託している学童はあるのか。</p>
事務局	<p>指導員の資格については、保育士や幼稚園教諭などの資格を持っている方に指導員をお願いしている。新制度では、資格だけではなく、県の研修を修了する必要がある。研修については、5年間の中で受講すればよいとされている。</p> <p>学童の委託については、現在は全て市で運営している。今後、民間参入に対応出来るようにするため、現在条例を整備中である。</p>
小助川委員	<p>現行の学童保育事業を前提として考えること自体が現実的にも数字的にも難しくなっていると思う。学童保育ではない形での放課後健全育成事業を創設する段階に来ているのではないか。具体案としては、例えば、夏休みに実施している「寺子屋事業」の継続化やNPOを活用した学校外施設における学童事業の展開など。特に高学年に保育は必要とされていないと思う。</p>
事務局	<p>保育が必要な児童は今後もいるので、市が責任を持って保育をしていきたい。放課後の高学年の居場所づくりについては、小助川委員がおっしゃったような具体案について、教育委員会と協議しながら事業展開していきたい。</p>

和泉会長	ただ足りない数値を確保するという話ではなく、現場の声を踏まえた具体的な事業展開をお願いしたい。
五十嵐委員	幼稚園教諭の募集はとても人数が少ないが、学童指導員は募集をするとどれくらい集まるものなのか。
小助川委員	実際の募集人員も教えて欲しい。
事務局	<p>募集人員については、1月頃に新一年生と現在学童に入っている児童の申し込み受付を行い、その結果でクラスや人数等が決定されるため、12月の募集については「10名程度」のような表記で記載することになる。</p> <p>募集状況については、募集人数以上の申し込みが常にあるのが現状なので、欠員が生じていない。なお、子育てが終了した世代の申し込みが多い。</p>
和泉会長	<p>今後については、様々な課題が見えてくると思うが、数値の部分や現時点での方針については、資料のとおりでよろしいか。 (委員了承)</p> <p><b>(2) 計画素案及びパブリック・コメントについて</b></p> <p><b>【関係資料】</b></p> <p><b>資料3-1 吉川市子ども・子育て支援事業計画素案</b></p> <p><b>資料3-2 吉川市子ども・子育て支援新制度に関するパブリック・コメントについて</b></p> <p>(事務局から素案及びパブリック・コメントについて説明)</p> <p>(質疑応答)</p> <p>※ 以下、各委員から次のとおり意見等があった。事務局回答含め、素案の修正等について、今後検討し、反映させる。</p>

小助川委員	<p>19頁「乳児家庭全戸訪問」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タイトルがわかりにくい。</li> </ul> <p>18頁「ひとり親家庭に対する支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「なお、～」以降の文章については、18頁の表の下に注釈として入れた方がよい。</li> </ul> <p>19頁「非行相談件数」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算等が間違っている箇所があるので、見直しをお願いしたい。</li> </ul> <p>25頁「施策体系」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に分かりやすい表である。</li> <li>・「まちを活かした豊かな遊びと学びの環境を整えるために」の「遊び」の部分について結びつくものが思い浮かばない。例えば、「地域が中心となった子育て支援」の中に括弧書きとして「寺子屋事業など」のような表記を追加してもらえれば、より分かりやすくなると思う。</li> </ul> <p>36頁「時間外保育事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確保されている人数も表記してほしい。</li> </ul> <p>40頁「乳児家庭全戸訪問事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確保の内容について、前回の審議会と説明や数値が変わっている。</li> </ul> <p>事務局回答：担当部署に確認・調整したところ、数値や考え方等に変動があったため、内容が変更となった。</p> <p>40頁「養育支援訪問事業及び要保護児童対策地域協議会による要保護児童等に対する支援に資する事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前回のタイトルの方が分かりやすいので、表記を戻した方がよいと思う。</li> </ul> <p>41頁「養育支援訪問事業」、42頁「その他要支援児童の支援に資する事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・量の見込みの根拠について教えて欲しい。</li> </ul>
-------	---

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確保の内容が前回から変更されていることの説明。</li> </ul> <p>事務局回答：担当部署に確認・調整したところ、数値や考え方等に変動があったため、内容が変更となった。なお、数値については、国の方針によると、毎年度、達成状況を評価することになっており、児童福祉審議会で審議することになるため、来年度以降、数値について検討・精査していくことになる。</p> <p>また、用語集などを巻末につけて具体的なイメージを持ってもらう形にしたい。</p> <p>43頁「母親に対する支援」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子育てメンタルヘルスサロンとメンタルヘルス子育て講座の用語が似通っているため、わかりやすい表現にしてもらいたい。</li> </ul>
林美希委員	<p>25頁「施策体系」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一時預かり事業、時間外保育事業、病児・病後児保育事業、緊急サポート事業、子育て援助活動支援事業、子育て短期支援事業については、別の施策体系に移動した方がよいのではないか。</li> </ul>
和泉会長	<p>42頁「職業生活と家庭生活との両立」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ここは非常に重要なところである。審議会でも意見等が出ている箇所であるため、もう少しボリュームを持たせた方がよいと思う。</li> <li>・現場の声をどのように施策として反映し、展開していこうと考えているのかについて、計画の中で見えるとよい。現場の声から出てきた課題を市として認識したうえで、どのような方向で進んでいくのかを計画の中に記載できると良い。</li> </ul>

和泉会長	<p>方向性はかなり明確になったと思う。その他、御意見がなければ議事は以上となる。</p>
事務局	<p>今回いただいた意見を踏まえ、量の見込みを再度調整していくことになるが、場合によっては、今後も数値がその都度変更する可能性がある。ただし、考え方は変わらないので、ご承知いただきたい。</p>
事務局	<p><b>4. その他</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局からの連絡事項</li> </ul> <p><b>追加資料 利用者負担について</b></p> <p>※ 第3回審議会の議事として予定していたが、協議等に時間がかかることから、第4回審議会の議事として取り扱いたい旨説明。</p> <p><b>追加資料 平成26年度吉川市児童福祉審議会日程（案）</b></p> <p>① 次回の内容について</p> <p>次回の内容は、次の2点とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 新制度移行後の利用者負担について</li> <li>(2) 計画案のパブリック・コメント結果報告</li> </ul> <p>② 回りの日程について</p> <p>日程：平成26年12月17日（水）午後6時から 会場：吉川市役所第二庁舎204会議室</p> <p><b>5. 閉会</b></p>
<p>以上、会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: center;">平成26年10月23日</p> <p style="text-align: center;">署名委員 五十嵐 修 自署      署名委員 戸張 精一 自署</p>	